特集
ここから始める
SDGs広報

新聞はいま、SDGsをどう報じているのか？

２０１７年を機に報道量急増 近年は「脱炭素」がキーワード

「ＳＤＧｓ」という言葉が広く日本の社会に浸透してきたのは、政府や企業、ＮＧＯなどがＳＤＧｓに関するキャンペーンやイベント、プロジェクトを進めたからでもある。そしてメディアもまた重要な役割を果たしてきた。3月に発表された新聞16紙による新聞広告の読者調査によると、「ＳＤＧｓの情報収集経路は新聞とテレビがともに73・5%」と高かった。新聞でＳＤＧｓはどのように報じられているのだろうか？

ここでおさらい！　SDGsとは？

SDGs（エスディージーズ）とは「Sustainable Development Goals」の頭文字を取った略称であり、「持続可能な開発目標」と訳されます。2015年９月の国連サミットで「MDGs（ミレニアム開発目標）」の後継として採択された、16年から30年までの国際社会共通の目標のことです。SDGsでは格差問題や気候変動への対策など、先進国も一丸となって取り組むべき目標が挙げられています。「地球上の誰一人として取り残さない（leave no one behind）」、持続可能で多様性と包摂性のある社会を実現させるための指針となっています。具体的には、持続可能な世界を実現するための「17の目標」と、それに対する具体的な「169のターゲット」から構成されています。

ＳＤＧｓ報道　年３０００件

ＳＤＧｓとは、持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals）を略したもので、２０３０年までに貧困の撲滅や格差の解消などを世界全体で実現することを目指す。設定されている17の目標は貧困や飢餓、教育といった開発の課題から、労働に関する課題、環境問題など多岐にわたる。ＳＤＧｓでは、目標16に「平和と公正をすべての人に」を掲げており、いま世界に影を落とすロシアによるウクライナ侵攻はＳＤＧｓ実現を脅かすものだ。

ＳＤＧｓという言葉は浸透し、日常の一部になりつつある。では、私たちが日々接しているＳＤＧｓ報道とはどのようなものなのだろうか。日経テレコンで読売、朝日、毎日、日経、産経5紙における「ＳＤＧｓ」「脱炭素」「再生可能エネルギー」「ＥＳＧ」の4ワードを含む記事件数を検索してみた。「ＳＤＧｓ」を含む5紙の記事件数は21年で３４１４件。前年と比べて約2倍増えた。

ＳＤＧｓは、国連で採択された15年から目標達成に向け動きだしたわけだが、同年の「ＳＤＧｓ」を含む記事件数はわずか31件。当初、日本でのＳＤＧｓに対するメディアの注目度は決して高くなかったのである。

ピコ太郎さんも一役

報道量が増加するきっかけとなったのは17年。露出量は前年の約5倍の３９１件となった。同年の記事をみてみると、2つの話題が露出急増につながったことが分かる。一つ目が7月17日夜（日本時間18日朝）に米ニューヨークの国連本部で開かれたレセプションでピコ太郎さんが「ＳＤＧｓ版ＰＰＡＰ」を披露したことだ。二つ目が大阪万博誘致に向けて、「関西ＳＤＧｓプラットフォーム」が設立されるなど、関西発の取り組みとＳＤＧｓが関連づけられて報じられたことが大きかった。ピコ太郎さんの動画に触れた記事は27件あった。

17年には、ＳＤＧｓ達成に資する優れた取り組みを行っている企業・団体などをＳＤＧｓ推進本部として表彰する「ジャパンＳＤＧｓアワード」がスタート。全国紙でもこうした動きを受け、ニュースだけでなく、

データでみるＳＤＧｓ報道

日経テレコンの検索をもとに作成

ＳＤＧｓ関連ワードを含む記事件数

日経テレコンの検索をもとに作成